

平成 28 年度第 1 回 海岸工学委員会幹事会 議事録

開催日時：平成28年9月26日（月）14:00～17:10

開催場所：土木学会（東京，四ツ谷），CD会議室

出席者：青木委員長，岡安副委員長，佐々木幹事長，森，渡部，川崎，重松，高橋，柿沼の各小委員長，北野主査，原田，荒木，富田，中山の各副小委員長，小笠原，高橋（研）（片山代理），加藤，栗山，後藤，高木，武若，松山の各委員兼幹事

資料：

- ・2016年度第1回海岸工学委員会幹事会次第（資料1）

■委員の交代

諏訪委員兼幹事（国総研）→ 加藤委員兼幹事（国総研）

■前回議事録の確認

- ・WEBに公開済み

■議事前報告（佐々木幹事長）

特になし

■審議・報告事項

1. 海岸工学論文集第63巻発刊準備状況について（森小委員長，原田副小委員長，佐々木幹事長）

(1) 最終審査報告

- ・投稿論文数：373編

第1段審査通過論文数：305編（+企画セッション（要旨審査のみ）2編）

第2段審査通過論文数：296編（不採択2編，辞退7編）

第2段審査以降論文数：295編（不採択1編）

海岸工学講演会での講演数：303編（295編+企画論文無4編+通常号3編+CEJ1編）

- ・論文辞退の理由

期日までに執筆不可能4編，用事のため発表できない1編，病気1編，海外転職1編

取り下げに際して，著者全員の自筆署名が入った文書の提出を求めた。

(2) J-Stageに関する作業

- ・組版を廃止したが，業者にフォーマットチェックを依頼した結果，著しくフォーマットを逸

脱した論文1編を組版とし，著者が対応可能で修正が必要な論文が14編あった。

(3) 論文編集の課題

- ・最終論文のPDFに様々なゆらぎがあり，想定より時間を要した。

- ・ 題目、著者の変更ルールについての問い合わせがかなり多かった。WEBで案内している。
 - ・ 査読のフォーマットがあいまいという意見があった。
 - ←主査の負担が大きくなっているので、査読フォーマットがあった方がよい。
 - ←「判定の判断」の欄に採否に関わるcriticalな点をしっかり書き込むことになっているが、十分対応してくれていない査読者がいる
 - 修正依頼書を見直す方向で考える。
 - ・ レベルが低い、二重投稿の嫌疑など、問題のある論文の投稿があった。
 - ・ 明らかにレベルが低い等の問題があると主査、および編集小委員会(cec)が判断する論文は、第1段審査の判断にかかわらず不採択とする。
 - ・ 第2段審査結果の査読コメント等で、著者が不適切さやレベルの低さに気づき、修正が困難な場合は、第2段審査後の取り下げを認める方針とする。
 - ・ 本論文を投稿しないことについては従来通り認めず、厳しく対応する。
 - ←辞退する場合には、編集小委員会に連絡するように案内するのはどうか。
 - ・ 二重投稿については、Q&Aで例示する。
 - ←CEJでは、著作権や査読の有無に関係なく、webで閲覧できる状態の資料等と同様の内容で投稿すると二重投稿とみなされる可能性が高い。
 - ←投稿時に著者から二重投稿でない旨、証書をとるといった方法もある。
 - ←査読付論文としての海岸工学論文集のスタンスにも関わる。
 - 具体的案を検討し、次回示すこととした。
 - ・ 今年度からBIBファイルの提出が不要になった。来年度は形態、スケジュールを大きく変更しないこととする。
 - ・ J-Stageに公開されている論文には、受付日はあるが、採択日の記載がない。採択日も分かるようにした方がよいとの意見があった。
 - J-Stageの当該特集号のトップページ等に採択日を記載するよう、検討することとした。
- (4) 海岸工学講演会における発表割当可能数の検討
- ・ 全303編の発表を枠に収めるため、開始時間を従来より20分早め、8:40開始とした。従来通りとするには発表数を15編減らす必要がある。
- (5) 著者負担金について
- ・ 著者負担金は36,000円(DVDのみ3,000円、共に昨年度と同じ)の見込み。
 - ・ 過年度の著者負担金の未払いが問題となっているが、投稿者以外の共著者にも連絡を取る等の対応により、回収が進んでいる。
 - ←共著者にも連絡していれば、早く解決していたかもしれない。

2. 海岸工学論文賞および同論文奨励賞について(佐々木幹事長)

- ・ 従来通りの選考手続きで、候補論文が選考された旨の説明があり了承された。
- ・ 海岸工学論文賞は9編の審査対象論文から3編が候補として選考された。

- ・奨励賞は 5 編の審査対象論文から 3 編が候補として選考された。

3. 海岸工学論文集の将来検討について（北野主査）

- ・副査によるフォーマットのチェックがますます重要になっている。
- ・論文原稿の提出物は、今年度からPDFのみとなった。
- ・体裁の完成度が低い論文 1 編は組版で対応。費用は15,000円ほど。
- ・組版の廃止により生じたスケジュールの余裕は、第2段原稿の論文執筆期間、第2段原稿の査読期間、DVDの早期配布に充てる。
- ・企業広告は件数が増え、広告収入は227万円となった。
←講演会会場のパソコンの待ち受け画面で、広告企業のロゴを入れてはどうか。
- ・今後の課題として、論文データベース（データ作成は印刷会社に依頼）の広報が挙げられた。

4. 海岸工学講演会企画セッションについて

(1) 第63回海岸工学講演会企画セッション（重松小委員長）

テーマ：東日本大震災と環境

オーガナイザー：重松，日向

応募状況：A 企画セッションA（本論文あり）4編（最大見込み）

→テーマとの関係で企画セッションでは採用せず

B 企画セッションB（アブストラクト審査のみ）2編 →採用

C 一般の応募論文から（本論文あり）3編 →著者の了解を得て採用

招待講演者：3名（了解済み）。

(2) 第64回海岸工学講演会企画セッションについて（加藤委員兼幹事）

- ・「流砂系の総合的な土砂管理と海岸保全」というテーマで検討を進めていく。

←実務に携わっているコンサルタント会社からの話題も含めてほしい。

5. 第63回海岸工学講演会（大阪）の準備状況（荒木副小委員長）

実行委員会：間瀬 [実行委員長]（京大），荒木 [幹事]（阪大），後藤・森・原田・五十里（京大），重松・遠藤（大阪市立大），高橋・安田（関西大），内山（神戸大），柿木（神戸高専），川崎（（株）ハイドロソフト），青木（阪大）

後援：近畿地方整備局，大阪府，大阪市を予定

期間：2016年11月16日（水）～18日（金）

講演会：大阪大学中之島センター（北区中之島）

ゴミは各自で持ち帰ること。飲食は会議室内のみ可。

懇親会：11月17日（木）19:00～21:00（講演会会場からの移動時間を考慮して変更予定）

会場：中之島ソーシャルイートアウェイク（大阪市中心公会堂内，建物内及び周辺は禁煙）

会費：7,000円（予定）

見学会：Aコース：大阪港・神戸港。11月15日(火)12時50分に神戸地方合同庁舎に集合。

Bコース：津波・高潮ステーションおよび木津川水門。13時15分に新大阪駅に集合。

両コースとも、17時に講演会会場に到着する（前日シンポに間に合うように）。

6. 第63回海岸工学講演会前日シンポジウムについて（高橋小委員長）

- ・ 11月15日（火）17:00～19:30に大阪大学中之島センターで開催する。
- ・ 論文レビューやベンチマーク問題の完成イメージなど、小委員会の検討状況のほか、他分野の取り組み状況の紹介を行い、パネルディスカッションを行う。

7. 第64・65回海岸工学講演会について

(1) 第64回海岸工学講演会（札幌）の準備状況（渡部小委員長）

実行委員会：山下〔実行委員長〕（北大），渡部・猿渡（北大），宮武（函館高専），
中島・木岡・大塚（寒地土研）

後援（予定）：北海道開発局，寒地港湾研究技術センター，札幌市

日程：2017年10月25日（水）～27日（金）

会場：TKP札幌駅カンファレンスセンター（JR札幌駅北口徒歩2分，旧代ゼミ）

懇親会会場：未定（周辺のホテル等）

見学会（案）：10月24日午後，前日シンポジウムの前

Aコース：石狩湾新港

Bコース：北大紅葉散策（終日フリーで）

予算：札幌市会議助成(1000名)予定

(2) 第65回(2018年度)の海岸工学講演会の開催地について（佐々木幹事長，柿沼小委員長）

- ・ 2018年度は当初は四国地区で検討したが，対応が困難であることが判明したため，九州開催での検討をお願いし，鹿児島県開催で検討を始めたが，適切な時期の会議に空きがなく，現実的な費用での会場の確保が既に困難な状況が判明した。
- ・ 再度，中国・四国・西部地区にて検討頂くこととした。

8. 第52・53回水工学に関する夏期研修会（Bコース）開催について

(1) 第52回（2016年度）水工学に関する夏期研修会の実施報告（小笠原委員兼幹事）

期間：8月22日（月）～23日（火）

会場：秋田大学手形キャンパス

テーマ：東日本大震災後の津波防災(海岸・港湾コース)

参加者数：74名

参加者のアンケートでは，講義はおおむね好評だったが，参加費が高い，レベルが高過ぎる，懇親会をやってほしい等の意見があった。また，今後取り上げてほしいテーマとして

先進技術，最新の事業紹介などがあつた。

(2) 第53回（2017年度）（幹事：海岸工学委員会）の開催地について（青木委員長）

実行委員：青木・荒木（阪大）【海岸工学】，竹原（近大），入江（阪大）【水工学】

日程：2017年8月31日～9月1日 or 9月4日～9月5日

場所：大阪大学吹田キャンパス工学部講義室

テーマ：維持管理などを検討中

9. Coastal Engineering Journalについて（渡部小委員長）

- ・ Impact Factor 2.5 から 0.70 へ（2011津波特集号の貢献期間終了）
- ・ 特集号の編集状況
 - フィリピン台風ハイヤン特集号 10編で出版
 - 震災5周年特集号 18編/38編の全文を審査中（13編出版の見込み）
 - Climate Change特集号 13編/14編のアブストラクト採択
 - 2018年はEstuarine hydrodynamics and morphodynamicsをテーマに準備中
 - 2019年は粒子法をテーマに準備中
- ・ CEJ Award, JAMSTEC中西賞, CEJ Citation Awardの受賞論文は，海岸工学講演会の開会式で表彰状授与を行う。
- ・ CEJの機関や研究室での定期購読とCEJ論文の積極的な引用をお願いしたい。
←既発表の関連論文を特集号にリンクするとよい（バーチャル特集号のイメージ）

10. 研究小委員会等の活動報告

(1) 広報（川崎小委員長）

- ・ 活動状況について，Web情報の充実，アウトリーチの充実について報告があつた。
- ・ 過年度課題として討議集の扱いをどうするか引き続き検討を行う。

(2) 沿岸域（重松小委員長）

- ・ プロジェクト「環境問題のその後」において，環境要因と研究アプローチについて検討する。
- ・ 12月16日に大阪市立大学文化交流センターで行われる沿岸環境関連学会連絡協議会ジョイントシンポジウム「瀬戸内海環境の将来像を描く」を海岸工学委員会が後援することが了承された。

(3) 津波（高橋小委員長）

- ・ データフォーマットや最終アウトプットを各ワーキンググループで検討中。
- ・ 第63回(2016年度)海岸工学講演会の前日シンポジウムの開催のほか，講演会期間中に小委員会を予定している。

(4) 波動モデル（柿沼小委員長）

- ・ 研究集会「海洋・海岸における波動の解析モデルの展望」を12月17～18日に九州大学応用力学研究所で開催する。

- ・来年度、土木学会から図書を出版したいとの希望があった。
 - ←啓発が目的なら、土木学会以外から出版する方が売り上げが多くなるかもしれない。土木学会でも採算性の観点から出版の条件は厳しくなっている、といった意見があった。
 - 再検討いただくこととした。
- (5) 減災アセスメント（岡安小委員長）
- ・土木学会全国大会において、研究討論会を開催するとともに、小委員会にてケーススタディ地区の選定や検討内容の整理を行った。
- (6) 地域研究（青木委員長）
- ・9月18日にcecomメーリングリストでアナウンスした。2つのWGを立ち上げた。他地区での立ち上げを募集中。
- (7) 地盤材料（荒木委員兼幹事（水谷小委員長代理））
- ・2回小委員会を行うとともに、土木学会全国大会で研究討論会（参加者62名）を開催した。

11. その他

- ・濱口悟陵国際賞顕彰事業の後援について（青木委員長）
 - 顕彰事業の紹介があり、土木学会が後援することが了承された。

記録（加藤）